

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LET'S READ 1 授業例②

K.T. 先生

指導計画表

(全5時間)

時間	学習内容・主な活動
1	<ul style="list-style-type: none">・全体の導入・人間が自然から学んでいることには何かがあるか考える・導入 (p.47) とまとめ (p.50) の内容把握
2	<ul style="list-style-type: none">・ p.48 の魚とハスの葉の概要把握
3	<ul style="list-style-type: none">・ p.49 の人工衛星のパネルの折り方とカブトムシの羽の概要把握
4	<ul style="list-style-type: none">・全体の通読による内容の復習・今回新しく学んだことについてペアやグループでの話し合い
5	<ul style="list-style-type: none">・外国における「自然との共生」の関連事項の発表会・ミウラ折り体験

実践例

1. LET'S READ の扱いについて

平成24年度版 *NEW CROWN* では、各学年にそれぞれ2つの LET'S READ が設けてあります。これは、各 LESSON で基礎・基本となる言語材料を学び、USE Read である程度のもまとまった分量の英文を読んだ後に、特に「読むこと」の活動に重点を置いた単元として位置づけられています。数ある LESSON や USE Read, We're Talking と違って、年間わずか2回の LET'S READ では、次のような視点で授業に臨んでいます。

(1) 主体的に「読むこと」を楽しむ

(2) 概要把握に重点を置く

(3) グローバルな視野をもつ契機とする

これら3つのことを授業の最初に生徒たちにも伝え、普通の授業スタイルとは違うことを確認しておきます。

(1) 主体的に「読むこと」を楽しむ

英文の量に圧倒されず、主体的にそして楽しんで読み進めることを強調します。その際に支えとなるのは、

ア スキーマ（背景知識）

イ これまでに培った英語力

ウ テキストの両側に載っている WORDS

などです。それらを総動員して、外国で新聞や雑誌を読むぐらいの気持ちで気楽に読み進めるようにします。

ただここで重要なことは、題材に対する生徒たちの興味・関心の高さです。今回は「自然から学ぶこと」の説明文ですから、「自然科学」の分野に興味や関心がどの程度あるかということが主体的に読み進めていく上で大きなポイントとなります。

正直、生徒たちの中にはタイトルをみただけで「えー、分かんない」「私、理科ダメだから」などという言葉が聞こえました。

そこで「読むこと」の指導としまして、初めはノーヒントで黙読させ、生徒たちの黙読が終わる頃を見計らって、簡単な導入を行います。ただしそれは、

ピクチャーカードを使って本格的に本文を理解させるものではありません。あくまでも、題材に対する興味・関心を高める意図で行います。

こうして、自分の力で1つでも2つでも「読めた、分かった」という達成感を体験させ、それが「読むこと」への楽しみにつながっていくようにします。

(2) 概要把握に重点を置く

細部にこだわらず、前記の3つの知識や英語力をフル活用して「何がどうした」を中心に、アウトラインをつかむように読み進めていきます。

その際に問題になるのが、分からない単語や文法にぶつかったときです。私は「飛ばし読み」を勧めています。読んでいて分からなかったら、飛ばしていいからとにかく最後まで読み通すこと、そしてまた最初に戻ってまた読み直してみましよう、と励まします。「完璧主義」からの脱却が概要把握のコツであり、LET'S READ は言語材料の復習の場ではないことを、教師側も認識しておかないと生徒たちの「読むこと」への楽しさも半減してしまいます。

また、Words に出てくる語句の発音練習は黙読の一助として行いますが、生徒の負担を考えると全文を通してのスムーズな音読は求めないようにします。

(3) グローバルな視野をもつ契機とする

今回の題材では、外国の新幹線や自動車の形、三浦氏のように自然界の力を科学技術に応用したような科学者が外国にもいるかなど、各自が本やインターネットで調べグループやクラスで発表会をもちます。たとえば、導入の部分に関して飛行機を発明したライト兄弟のことを発表した生徒がいました。こうして英語を通して世界に視野を向けるきっかけとします。

このようなことは普通の LESSON でも可能ですが、長文を読み終えた達成感をさらに生かす意味でも、話題を広げ生徒たちの視野を外国に向けさせていきたいものです。

2. LET'S READ の進め方について

進め方の基本コンセプトとしては、「全体」から「個」、そしてまた「全体」というスタンスでどの学年の LET'S READ も進めています。

今回の LET'S READ の 4 ページの構成を次のように分析しました。

47 ページ・・・導入
48 と 49 ページ・・・具体的な内容
50 ページ・・・まとめ

47 ページ・・・導入

48 と 49 ページ・・・具体的な内容

50 ページ・・・まとめ

(1) 導入 (1 時間目) 47 ページと 50 ページ

まず、タイトルやリード文から想像できることやこれから学ぶことを生徒とのやりとりを通して予想させ、題材に関する興味・関心をかき立てます。

「私たちが自然から学んでいることにはどんなことがあるでしょう」と問いかけると「太陽光発電」とか「風車」という言葉がよく出てきます。「それは自然を利用していることですね」と言うと、「ブルドーザーのキャタピラはいも虫の動きをまねしていると思います」などと反応が来る。このようなインタラクションがこの後の主体的に「読むこと」の活動のモチベーションに大きく関わってくるところです。

また、3年生ともなると LET'S READ の質も量も読み応えがあり、生徒一人一人の学力差も考えると概要把握のための補助シートがあるとさらに「読むこと」に意欲的に取り組む様子が見られます。たとえば・・・

ア 全体に関して

LET'S READ 全体を読んで次の質問に答えなさい。

- (ア) どのような動植物の特徴が私たちの日常生活に生かされていますか。気づいただけ挙げなさい。
- (イ) 三浦氏はどんなことを何に応用しましたか。

イ 導入の p.47 に関して

- (ア) 飛行機の最初のデザインの一つは何をまねしましたか。
- (イ) 科学者たちが、新製品や新科学技術を研究するときによくすることは何と何ですか。

ウ まとめ P50 に関して

：

：

このような補助プリントは、口頭だけで行うこともできますし、もう少しいいいに質問を変えてもできます。要は、生徒たちの実態をよく観察して、生徒たちにとって設問がヒントになるような配慮をしながら、「よし、最後まで読んでみよう」という意欲づけの一つになることを期待して作成します。

ところで、この導入の 47 ページにはいきなり現在完了の経験用法が出ており、まとめの 50 ページにも too-to や so-that などが使われています。注意すべき点としまして、ここはつい文法の説明に力が入りがちな箇所ではありますが、あくまでも概要把握に重点を置くようにします。

(2) 具体的な内容の把握

(2~3 時間目) 48 ページと 49 ページ

いよいよ具体的に「自然から学んでいること」の内容把握をします。

まず、前時の学習内容の確認をし、その後はじっくりと黙読の時間を与えます。その際、すぐに補助プリントは配付しません。難しい語句は Words をヒントに、後は自分の英語力を頼りに主体的に読み進めるよう励まし続けます。この黙読の時間を十分に確保することが、LET'S READ の授業展開の中で最も大切なことです。黙読の途中で「辞書を使ってもいいですか」という声には、「細かいところにはこだわらなくていいよ」と一言添えて、1 ページにつき 2 回までという条件を付けて辞書の使用を認めています。生徒がよく調べる単語としましては、clothes や carry が多いです。辞書の使用も主体的な「読むこと」への活動の一つとして捉えています。

次に、生徒たちの黙読が終わった頃を見計らい、概要把握のための補助プリントを配付します。そう

すると、一気に書き出す生徒がいる反面、ペンが止まりがちになる生徒もいます。この段階では、まだ友だちと相談したり教師側でヒントを与えたりせず、もう一度じっくり補助プリントの設問を参考に自分で読み直すよう励まします。

そして、全体的に黙読やプリントへの記入が終わった様子を確認した後、隣席の級友とペアになって答えの確認をします。お互いに補助プリントの答えが不安な場合は、前後や斜めの級友とも確認し合います。

さらに、48 ページと 49 ページはそれぞれ 2 つの段落から成り立っていることを利用して、先ほどのペアになってどちらかの段落の概要をお互いに口頭で発表し合う活動を取り入れます。この際に注意することは、本文の逐語訳ではなく、あくまでも自分の言葉として相手に分かりやすく伝えるということです。

なお、この授業の最後に次の次の授業で「外国における『自然との共生』の例の発表会」を行うことを予告しておきます。

(3) 全体の復習と今回学んだことの発表会

(4 時間目)

まず、全体の 4 ページを各自でもう一度黙読します。概要把握に不安なところは、補助プリントや辞書も再度活用してよいことにしていますそして、Words の語句や本文の音読をします。ただし、音読している英文の意味が自分で分かる程度でよいこととします。まとめとして、この Learning from Nature から、自分が新しく学んだり興味・関心をもったことについてペアやグループで発表し合います。授業の最後には、次時の予告として外国での自然との共生にはどんなものがあるかを調べてくるよう再度伝えます。

(4) 外国における「自然との共生」の関連事項の発表会とミウラ折り体験 (5 時間目)

本単元のまとめの時間として、「グローバルな視野をもつ契機とする」という 3 つ目のねらいに迫ります。各自が調べてきた外国における自然との共生の例を発表し合います。今回の題材はテーマが難し

いので日本の他の例を挙げたり、教師側で提示することも視野に入れ、臨機応変に対応します。

いずれにしても、できる限り生徒たちの視野を世界に向けさせる機会になるように位置づけたいところです。

最後に、ミウラ折りの体験です。生徒全員に紙を配りトライさせるとみんな無我夢中で取り組みます。だんだん小さく折っていった最後に大きく紙を広げると、教室中に歓声が沸き起こります。

3. 成果と課題について

LET'S READ は教師の指導観の持ち方でどうにでもなる単元です。文法だ、語彙の定着だとあまり欲張らず、概要をつかみながら「読むこと」を楽しむことに焦点を当てたいところです。

(1) 成果

ア 「読むこと」の活動に意欲的に取り組む生徒の増加

学年を重ねるごとに、長い英文読解に苦しめない生徒が増えてきました。

イ 「脱完璧主義」による「読むこと」への楽しさの増長

言語材料の定着やスムーズな音読などを求めない分、「読むこと」を楽しんでいる様子が多く見られるようになってきました。

(2) 課題

ア GET での基礎・基本の定着

楽しく読み進めるための英語の基礎力として、普段の授業での基礎・基本の定着と言語活動のさらなる充実が求められます。

イ 補助プリントの発問の工夫

読む楽しさを深めるために、事実発問の他に推論発問の導入も考えられます。